

# リープソンエナジー 設立5周年迎えパネルOEM強化 国内自社発電所、 海外展開にも本腰

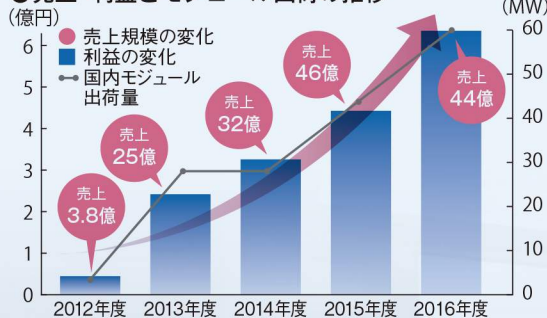


リープソンエナジー  
周鳴飛社長

神戸に本社を置く太陽光発電システムメーカーのリープソンエナジー(周鳴飛社長)は、今年7月に設立5周年を迎えた。7月28日には、記念パーティーをホテルオークラ神戸で開催し、国内社員30名に来賓約100名を加えた、およそ130名が来場した。周社長は冒頭挨拶で「設立当初数名で始まった当社も、今やグループ会社・工場を含めると、従業員は約200名まで増えた。取引実績社数は250社を超え、増収増益を達成できた。このような急速な発展を遂げることが出来たのは、お客様、取引先の方々が、私たちを信じ、支えて下さったからだ。そして、従業員には一番感謝を述べたい。今日を新しい始まりの日とし、頑張っていきたいと思います」と述べた。

同社は12年7月に設立して以来、特に低圧・高圧向けの太陽光発電システム、架台で着実に実績を積み重ねており、売上高は13年度25億円、14年度32億円、15年度46億円と大きな増収を見せている。16年度に売上高はFITバブルの落ち着きを受け、2億円程度マイナスとなったが、収益については納品が期を跨いだことなどにより、5年間連続でハイペースな増益をグラフに示せる形となっている。

## ●売上・利益とモジュール出荷の推移



また、太陽光発電システムの販売だけでなく、自社発電事業も強化する。既にリープソン発電事業という会社を立ち上げており、

「私たちの会社は他の外資メーカーと違って、日本でうぶ声を上げた。撤退という選択は絶対ない。では、どのように生き残っていくか。単純に太陽光発電システムのコストを下げるだけでは、問題の根本的な解決にはならない。市場が縮小してもなくなるわけではない。生き残るカギは、やり方に掛かっている」と語気を強める。

さらに、8月21日には江蘇省常熟市で、全自動化生産ラインの新工場が立ち上がる。量産体制を確立し、生産コストを下げ、発電効率を高める、より高品質な製品を出していくとした。「日本の住宅屋根に適した新たなパネル開発なども進め、市場競争力を高める。もちろん、日本市場以外でも、中国、東南アジア、中南米に展開する上でも重要な生産拠点となる」と話す。特に、中

国政府は現在、太陽光発電導入に積極的であると、浙江省、江蘇省だけを合わせても年間2〜3GW規模の需要があり、日本のデマンドを凌ぐ。こちらの産業用はもちろん、家庭用にも特約店を作り販売を強化していくという。上海への営業数か月で、早くも数十社の販売店と契約を交わしたとする。一方、中南米、東南アジア市場には18年初頭に打って出る。

周社長は、中国や同地での販売量が伸びてくれば、生産量によるコストメリットも出てくる。日本の既存のお客様にも還元できるはずと、国内市場への還元を目指す。日夜、日中間を行き来する。



リープソンエナジー

本社：〒650-0025 兵庫県神戸市中央区相生町1-2-1  
東成ビルディング6F

東京支社：〒105-0004 東京都港区新橋3-5-10 新三ビル6F  
TEL.0120-850-800 info@leptonenergy.jp